

I 連携中枢都市圏及び構成自治体

1 目的

地域の中心都市である北九州市と近隣 17 市町が、「経済成長のけん引」「高次都市機能の集積・強化」「生活関連機能サービスの向上」の3つの柱をもとに連携し、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することを目的とする。

2 名称

本連携中枢都市圏の名称は、「北九州都市圏域」とする。

3 構成する市町の名称（6市12町）

北九州市、直方市、行橋市、豊前市、中間市、宮若市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町、小竹町、鞍手町、香春町、苅田町、みやこ町、吉富町、上毛町、築上町

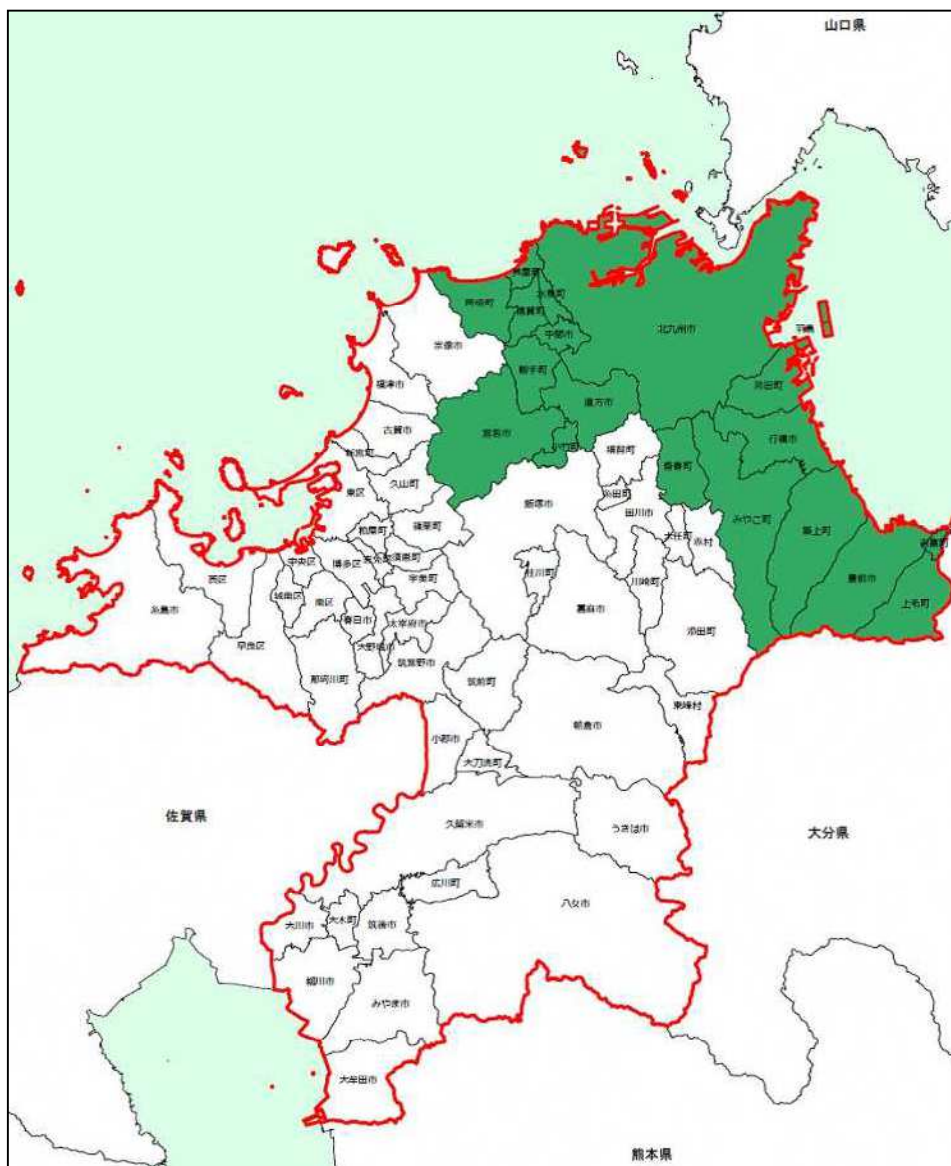


図1 福岡県における本圏域位置

II 圏域市町の概要・都市機能の集積

1 圏域市町の概要

(1) 圏域市町の状況

「北九州都市圏域」を構成する6市12町の状況を表1に示す。

表1 圏域各市町の状況

市町名	人口 (人)	産業別就業人口割合 (%)			面積 (k㎡)	概要等
		第1次	第2次	第3次		
 北九州市	900,494	0.7	23.3	72.6	492.30	九州で最初の政令指定都市。九州の最北部、本州との接点に位置し「官営八幡製鐵所」の操業開始(明治34(1901)年)を契機に“ものづくりのまち”として発展。陸・海・空の基盤が揃う拠点都市。
 直方市	54,151	1.7	27.3	68.1	61.76	石炭産業の隆盛により培われた“鉄工のまち”としての技術と技能の集積、歴史、文化、自然など地域資源を活かしたまちづくりを行う町。
 行橋市	70,330	2.2	30.3	64.0	69.95	京築地域の中心地として、また近年自動車産業を中心に全国でも有数の工業集積地となった九州北東部地域の中央に位置する拠点都市として、広域的な役割・位置付けが高まっている都市。
 豊前市	22,394	5.2	31.1	61.2	111.01	南部には修験道で知られる国指定史跡「求菩提山」、天然記念物「ツクシヤクナゲ」の群生する犬ヶ岳をひかえ、北東部は海の幸豊富な「周防灘」に面する自然豊かな都市。
 中間市	37,874	0.8	29.6	66.4	15.96	炭鉱のまちとして栄え、現在は住宅都市として発展。市の中央に遠賀川が流れ、東部は住宅地、商業地が形成され、西部は田園風景が広がり、工業団地なども立地。
 宮若市	24,449	5.0	29.7	61.4	139.99	山と川に囲まれた豊かな水資源を持つ。石炭産業に代わって、トヨタ自動車九州㈱を中心とした自動車産業が進出し、“工業のまち”として発展。
 芦屋町	12,497	2.4	22.1	72.5	11.58	町の東側は奇岩景勝の磯場、西側は白砂青松の砂浜と自然豊かな町。茶の湯釜として国の重要文化財に指定されている9点のうち8点が芦屋町で製作された「芦屋釜」であり、歴史文化にも富んだ町。
 水巻町	27,544	1.0	29.4	67.8	11.01	東は北九州市に隣接し、西は遠賀川に挟まれた南北に長い町。石炭産業のまちとして栄えたが、炭鉱閉山後は、積極的な住宅施策により、北九州都市圏内のベッドタウンとして発展。
 岡垣町	30,493	3.0	24.1	70.1	48.64	北九州市と福岡市の中間に位置する良好な交通アクセスと、三里松原や孔大寺山などの自然環境に恵まれた地域特性を背景にベッドタウンとして発展。
 遠賀町	18,416	2.8	26.8	68.3	22.15	古くから農耕文化が栄え、現在も基幹産業は稲作を中心とした農業。交通アクセスにも恵まれ、農村のゆとりと都市の活力を併せ持つ「笑顔と自然あふれるまちづくり」を進める町。
 小竹町	6,546	1.6	32.0	65.9	14.28	福岡県のほぼ中央に位置し、“石炭産業のまち”として発展してきた自然豊かな町。現在は産業団地の企業誘致を積極的に推進。
 鞍手町	14,137	4.0	33.7	61.4	35.60	遠賀川や六ヶ岳などの自然に囲まれ、主な産業は農業で巨峰の生産が盛んであり、工業団地もあり製造業も盛ん。九州自動車道のICがあり、交通アクセスに恵まれた町。
 香春町	9,311	2.7	25.8	71.0	44.50	セメント産業を中心に発展。香春岳をはじめとする山々に囲まれ、数々の史跡や文化遺産にも恵まれ、また、町内には5つの窯元がある町。
 苅田町	37,721	1.1	39.3	55.1	49.52	北九州空港、苅田港、東九州自動車道と併せて、陸海空の交通結節拠点となっている。日産自動車九州㈱を中心とした自動車産業が多く立地。
 みやこ町	17,040	8.4	30.4	60.0	151.34	英彦山を源流とする清冽な水と山々に囲まれ、オリジナルの農作物が育てられるなど、農業が盛んな歴史、文化、自然に富んだ町。
 吉富町	6,264	2.4	35.6	58.1	5.73	面積5.72km ² の九州一小さな町。東は山国川を境に大分県中津市と接し、北は波静かな周防灘に面している。清流と清々とした空気にはぐくまれ、自然環境に恵まれた肥沃な土地の田園町。
 上毛町	6,716	9.0	30.9	59.5	62.44	福岡県の最東端に位置する町。東西を山国川と佐井川に挟まれ、南部の山間部を除いて起伏は少なく、町北部に平野が広がるなどらかな田園地帯。
 築上町	15,586	7.5	24.0	63.9	119.57	町の南側に山林、東側に周防灘を有する自然豊かな環境を活かした農林水産業が盛んであり、国指定天然記念物「本庄の大楠」や国登録文化財「旧蔵内邸」などの名勝・旧跡もある町。
計	1,311,963	1.4	25.3	70.0	1,467.33	

(出典) 人口：福岡県「人口移動調査第2表 市区町村別、年齢別人口(令和7年9月1日時点)」
 産業別就業人口割合：総務省「令和2年国勢調査」
 面積：国土地理院「令和8年全国都道府県市区町村別面積調(令和8年1月1日時点)」
 概要等：各市町 Web サイトほか

① 地理・自然的特性

「北九州都市圏域」は、総人口約 131 万人、総面積約 1,467 k m²であり、ともに福岡県の約 30%を占めている。九州の最北部であるとともに、九州と本州、そして東九州と西九州の結節点に位置し、古くから陸上・海上の交通の要衝として発展してきた。

圏域の西側は福岡都市圏と境を接し、東側は大分県中津市に接するとともに、関門海峡を挟んで山口県下関市にも面している。

三方を響灘、関門海峡、豊前海に囲まれ、中心を福智山系が貫き、一級河川の遠賀川を有するなど、壮大な景勝地も多く、豊かな自然環境に恵まれている圏域である。

② 産業の特徴

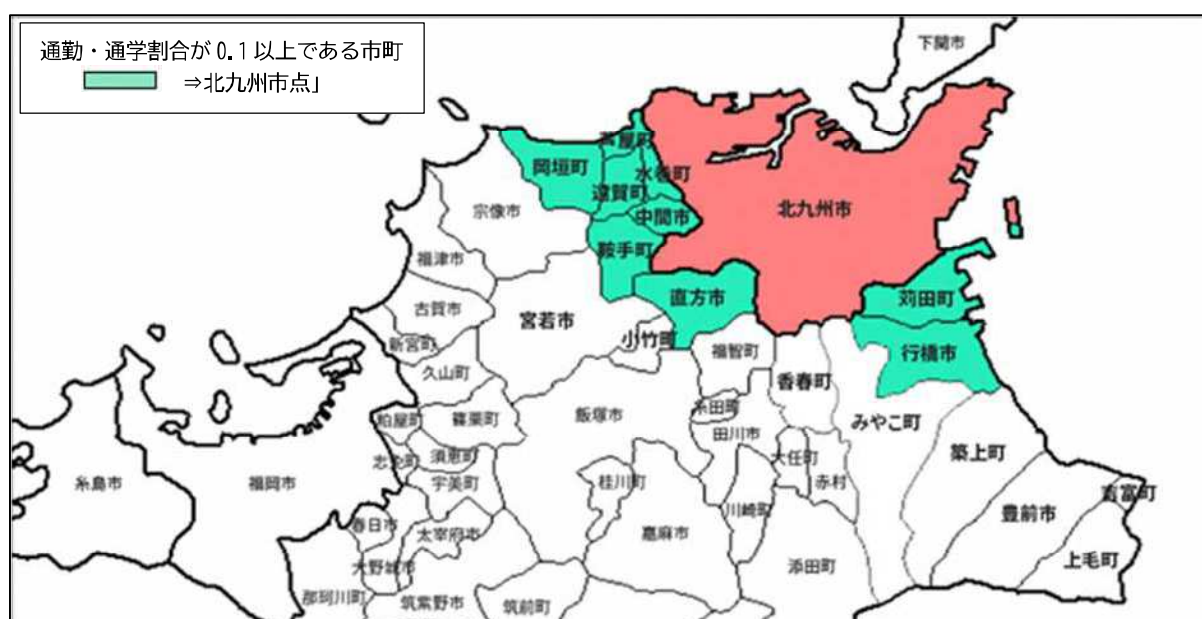
陸上・海上交通の要衝という立地特性を活かし、古くから様々な産業や文化が発展してきた。特に、1901 年の官営八幡製鐵所操業開始以来、筑豊地域の石炭産業振興や鉄道、港湾の整備などを背景に「北九州工業地帯」を中心とした製造業が発展してきた地域である。

現在も、鉄鋼、機械、化学など様々な素材型産業が集積する一方で、自動車関連産業や洋上風力発電といった次世代エネルギー関連産業、陸上・海上交通に加え、北九州空港も含めた交通基盤を生かした物流産業など新たな産業の集積も進んでいる。

③ 歴史的特性

北九州市の中央部を境に、響灘に面した「筑前の国」と豊前海に面した「豊前の国」に分れていた歴史があるものの、近年は北九州市を中心として一体的な経済圏・生活圏を形成し発展してきた地域である。

(2) 圏域市町の通勤・通学割合



(出展) 令和2年国勢調査結果「常住地による従業・通学市区町村」をもとに作成

図2 圏域市町の通勤・通学割合

市町名		北九州市への 通勤・通学割合
連携中枢都市	北九州市	
連携市町	直方市	0.13
	行橋市	0.13
	豊前市	0.04
	中間市	0.37
	宮若市	0.05
	芦屋町	0.30
	水巻町	0.41
	岡垣町	0.23
	遠賀町	0.30
	小竹町	0.05
	鞍手町	0.16
	香春町	0.09
	苅田町	0.17
	みやこ町	0.09
	吉富町	0.02
	上毛町	0.02
	築上町	0.07

(出展) 令和2年国勢調査結果「常住地による従業・通学市区町村」をもとに作成

※ ■ は通勤通学割合が0.1以上である市町

(3) 北九州市の商圈

① 有効商圈人口

北九州市の有効商圈人口は北九州都市圏域内外の市町村を含め 186 万人となっている。有効商圈人口の推移をみると、平成 22 年までは減少傾向にあったが、平成 27 年から増加に転じている。

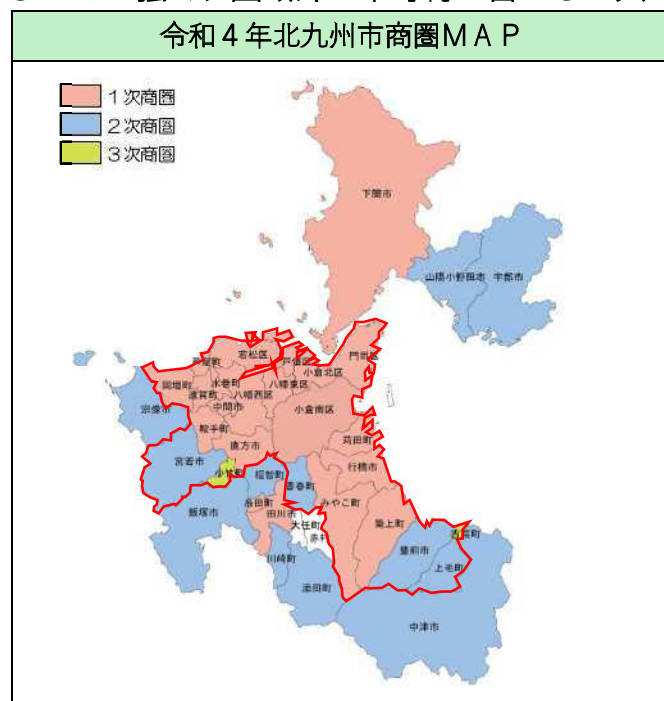


(出典)：北九州市「令和4年度北九州市商圈調査報告書」

図3 北九州市有効商圈人口の推移

② 商圏ランク

北九州都市圏域構成市町のほとんどが北九州市商圏ランクにおいて1次商圏として位置付けられており、中枢都市と連携市町との経済的な結びつきが強く、圏域外の市町村を含めると大きな商圏を形成している。



※赤枠は北九州都市圏域

1次商圏	買物出向率 70%以上の市区町村
2次商圏	買物出向率 50%以上 70%未満の市区町村
3次商圏	買物出向率 30%以上 50%未満の市区町村

(出典)：北九州市「令和4年度北九州市商圏調査報告書」

図4 北九州市商圏ランクMAP

(4) 「北九州都市圏域」の都道府県との比較

「北九州都市圏域」について、ア：人口、イ：面積、ウ：域内総生産、エ：製造品出荷額の4指標について全国47都道府県(福岡県については、北九州都市圏域を含んだ数値)と比較すると、人口・経済とも中位の都道府県に匹敵する規模であり、比較的狭い面積の中に諸機能が集積した地域であることが分かる。

① 人口

「北九州都市圏域」の人口(福岡県「人口移動調査 第2表 市区町村別、年齢別人口(令和7年9月1日時点)」)を、都道府県と比較すると27位相当の規模となる。この規模は、滋賀県、奈良県と同程度である(表3)。

② 面積

「北九州都市圏域」の面積(令和8年)を、都道府県と比較すると最も狭い香川県(1,876.83km²)よりも狭い規模である(表4)。

③ 域内総生産

「北九州都市圏域」の域内総生産額（令和4（2022）年度）は5兆5,673億円にのぼり、都道府県と比較すると27位相当の規模となる。この規模は、鹿児島県、愛媛県に匹敵する大きさである（表5）。

なお、「北九州都市圏域」について、経済活動別に域内総生産額（令和3（2021）年度）の内訳を見ると、「鉱工業」の比率が最も高く、次いで「不動産業」、「保健衛生・社会事業」の順に続く（表6）。

④ 製造品出荷額等

「北九州都市圏域」の製造品出荷額等（令和3（2021）年度）は5兆3,978億円にのぼり、都道府県と比較すると21位相当の規模となる。この規模は、北海道、京都府に匹敵し、福岡県以外の九州各県（佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）より大きい（表7）。

表3 圏域の人口の都道府県比較

都道府県	人口 (単位：千人)
1 東京都	14,178
2 神奈川県	9,225
3 大阪府	8,757
:	
8 福岡県	5,092
:	
23 熊本県	1,697
24 鹿児島県	1,532
:	
26 滋賀県	1,402
北九州都市圏域	1,311
27 奈良県	1,285
30 長崎県	1,252
:	
34 大分県	1,085
35 宮崎県	1,033
42 佐賀県	788

（出典）総務省人口推計（2024年（令和6年）10月1日現在）
福岡県人口移動調査（2025年（令和7年）9月1日現在）より算出

表4 圏域の面積の都道府県比較

都道府県	面積 (km ²)
1 北海道	83,422.27
:	
10 鹿児島県	9,186.05
14 宮崎県	7,734.16
15 熊本県	7,409.13
22 大分県	6,340.63
23 山口県	6,112.90
:	
29 福岡県	4,987.24
:	
37 長崎県	4,131.22
42 佐賀県	2,440.64
:	
45 東京都	2,199.94
46 大阪府	1,905.26
47 香川県	1,876.83
北九州都市圏域	1,467.33

出典：国土地理院「令和8年全国都道府県市区町村別面積調（1月1日時点）」より算出

表5 圏域の域内総生産の都道府県比較

都道府県		R4 県内総生産 (名目) (億円)
1	東京都	1,202,200
2	大阪府	431,242
3	愛知県	430,831
9	福岡県	201,872
24	山口県	63,062
25	熊本県	65,650
26	鹿児島県	60,486
	北九州都市圏域	55,673
27	愛媛県	51,381
30	長崎県	46,536
34	大分県	49,007
39	宮崎県	37,669
44	佐賀県	31,489

(出典) 内閣府「令和4年度県民経済計算」
福岡県「令和4年度福岡県市町村民
経済計算」より算出

表6 圏域の域内総生産の内訳

都道府県	R3 製造品出荷 額等 (億円)
農林水産業	0.3%
鉱工業	25.0%
電気・ガス・水道・廃棄物処 理業	3.6%
建設業	4.2%
卸売・小売業	9.1%
運輸・郵便業	7.7%
宿泊・飲食サービス業	1.5%
情報通信業	1.3%
金融・保険業	3.0%
不動産業	11.6%
専門・科学技術、業務支援サ ービス業	8.4%
公務	4.5%
教育	3.7%
保健衛生・社会事業	11.4%
その他のサービス	3.6%
輸入品に課される税・関税等	1.1%

(出典)：福岡県「令和4年度福岡県市町村民経済計算」
より算出

表7 圏域の製造品出荷額等の都道府県比較

都道府県		R3 製造品出荷額等 (億円)
1	愛知県	439,880
2	大阪府	169,758
3	静岡県	164,513
10	福岡県	89,519
18	山口県	56,169
20	北海道	55,872
	北九州都市圏域	53,978
21	京都府	52,704
25	大分県	38,463
29	熊本県	28,195
36	佐賀県	20,283
37	鹿児島県	19,828
41	宮崎県	16,368
42	長崎県	16,229

(出典) 経済産業省「令和3年経済センサス -
活動調査」より算出